

今こそサイエンスコミュニケーションの出番だ！

初めまして。生命医科学研究科医生命システム専攻の渥美友里と申します。私は、サイエンスコミュニケーター養成副専攻の修了生です。副専攻は学部生が対象ですが、授業で学んだことを活かして何か活動できないかと探していたところ、こちらに連載することを快諾いただきました。駆け出しのサイエンスコミュニケーターとして、様々な話題を取り上げていきます。

さて、今回はそもそも「サイエンスコミュニケーション」とは何か？について紹介します。狭義では、科学者が一般市民に科学的知識を伝えることをサイエンスコミュニケーションと呼ぶことができます。しかし、北原（2012）は、「科学の知識を伝えることが最重要目標ではなく、科学的知識を基盤としてコミュニケーション、すなわち、人と人の間の相互理解が行き渡る社会の構築が重要ではないか」と述べています<sup>1)</sup>。つまり、科学者が科学的知識を一方向的に与えるだけでなく、科学的知識を元に科学者、一般市民、政治家やマスコミなど様々な立場の人が対話することを、広義のサイエンスコミュニケーションと呼ぶことができます。

では、サイエンスコミュニケーションを実践するにはどうすればよいのでしょうか？今世界中の人が気になっているのは、なんといっても新型コロナウイルスでしょう。感染症そのものへの恐怖だけでなく、経済への打撃や国の政策に対する不安など、新型コロナウイルスがもたらす問題は多岐にわたります。このような問題こそ、先程述べた「広義の」サイエンスコミュニケーションの出番です。

まずは、ウイルスに関する正しい科学的知識を身につける必要があります。幸い、現代はインターネットの発達により、最新の科学的知識を簡単に手に入れることができます。例えば著名な科学雑誌 Cell や Nature、Science のホームページでは、新型コロナウイルスの特集ページが設けられ、関連する論文を読むことができます。一例として、Hoffman (2020) らが発表した論文を紹介します。著者は、新型コロナウイルス (SRES-CoV-2) は細胞に侵入するとき利用する受容体は、SARS の原因ウイルス (SRES-CoV) と同様であるため、既存の阻害剤が有効なのではないかと述べています<sup>2)</sup>。英語の論文はハードルが高いと感じる方には、京都大学の山中伸弥教授が開設しているホームページをおすすめします。このページでは、新型コロナウイルスの特徴や感染拡大防止への対策が紹介されているだけでなく、最新の論文やニュースもわかりやすく要約し掲載されています。できる範囲で科学的知識を手に入れたら、自分や社会が直面している問題や困っていることについて、対話の一步を踏み出すことができます。

サイエンスコミュニケーションとは、専門知識を豊富にもつ科学者だけが行うものではなく、様々な人が加わることで成り立つものなのです。未知のウイルスに漠然とした恐怖を抱いている方、連日の報道に振り回され気味の方、外出自粛で暇をもてあまして大学生も、一緒に考えてみませんか。

**【参考文献】**

- 1) 北原和夫. “サイエンスコミュニケーションはなぜ必要か.” サイエンスコミュニケーション. 日本サイエンスコミュニケーション協会編, 2012, p. 12-13
- 2) Markus Hoffmann. et al. SARS-CoV-2 Cell Entry Depends on ACE2 and TMPRSS2 and Is Blocked by a Clinically Proven Protease Inhibitor. Cell. 2020, vol. 181, p. 271-280